



肺炎は現在日本の死因第3位です。肺炎といっても原因は様々で、感染によるものや肺の組織の異常によって起こるものなどがあります。今回は頻度の多い感染による肺炎を紹介します。

肺炎の原因になる病原体の違いによって大きく3つに分類されます。

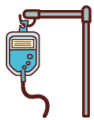
① 細菌性肺炎

肺炎球菌、インフルエンザ菌などの細菌によって起こり、肺炎の中で1番多くみられます。痰が絡んだ咳、発熱、息切れなどの症状があらわれます。重症になると酸素が血流に移行しにくくなることもあり、血液中の酸素濃度が低下して命にかかわることがあります。



《誤嚥性肺炎》

食物や唾液などが誤って気道に入ることを誤嚥と言います。誤嚥した食物や唾液と一緒に口腔内の細菌が気道に入ることによって起こるのが誤嚥性肺炎です。寝たきりの人や脳卒中にかかったことがある人は



嚥下機能が低下していることが多いため注意が必要です。

抗生剤による治療が一般的です。抗生剤は原因菌によって使い分けられます。

ペニシリン系	内服	ユナシン錠・アモキシシリンカプセル
	注射	スルバシリン静注用
マクロライド系	内服	クラリスロマイシン錠
セフェム系	注射	セファゾリン静注用・セフトリアキソン静注用



ワクチンで予防できる肺炎

肺炎球菌は口腔内の細菌の1つで、肺炎を起こす細菌の中で肺炎球菌が原因であることが最も多いため、**肺炎球菌ワクチン**(ニューモバックス、プレベナー13)を接種し、肺炎球菌による肺炎が重症化することを防ぎます。

②ウイルス性肺炎

RSウイルス、インフルエンザウイルス、アデノウイルスなどのウイルスによって起こります。発熱、咳などの症状がみられます。細菌性肺炎と比べて膿性痰が出ることは少ないのが特徴で、全身の筋肉痛や頭痛、倦怠感もみられることがあります。



インフルエンザウイルスは抗ウイルス薬による治療をしますが、その他のウイルスは直接効果のある薬は無いため対症療法を行います。

抗インフルエンザ薬	内服	タミフルカプセル
	外用	イナビル吸入
	注射	ラピアクタ注

ワクチンで予防できる肺炎

インフルエンザウイルスが引き起こす肺炎はインフルエンザワクチンで重症化を予防することができます。インフルエンザが最も流行する11月～3月に抗体価が最大となるように、9月～11月に毎年、**インフルエンザワクチン**を接種することが勧められています。



③その他の病原体による肺炎

★マイコプラズマ肺炎

若い世代に多く、数日間のしつこい咳と発熱が特徴です。マイコプラズマは細菌にもウイルスにもない性質をもっているため、効果がある抗生剤が限られています。



マクロライド系	内服	クラリスロマイシン錠・アジスロマイシン錠
---------	----	----------------------

★レジオネラ肺炎

レジオネラ菌によって発生します。レジオネラ菌は水の中に生息していて、シャワーや空調装置などの機械から出る細かい水滴を吸い込むことによって感染するため、集団感染を引き起こすことがあります。

抗生剤による治療が一般的です。抗生剤は原因菌によって使い分けられます。

マクロライド系	内服	クラリスロマイシン錠・アジスロマイシン錠
テトラサイクリン系	注射	ミノサイクリン静注用
ニューキノロン系	内服	レボフロキサシン錠
	注射	シプロキサシン静注用

抗生剤を内服するときの注意点

用法用量はきちんと守り、調子が良くなってきたからと言って自己判断で中断しないでください。きちんと治らなかったり、薬が効きにくい菌ができてしまったりすることがあります。

